

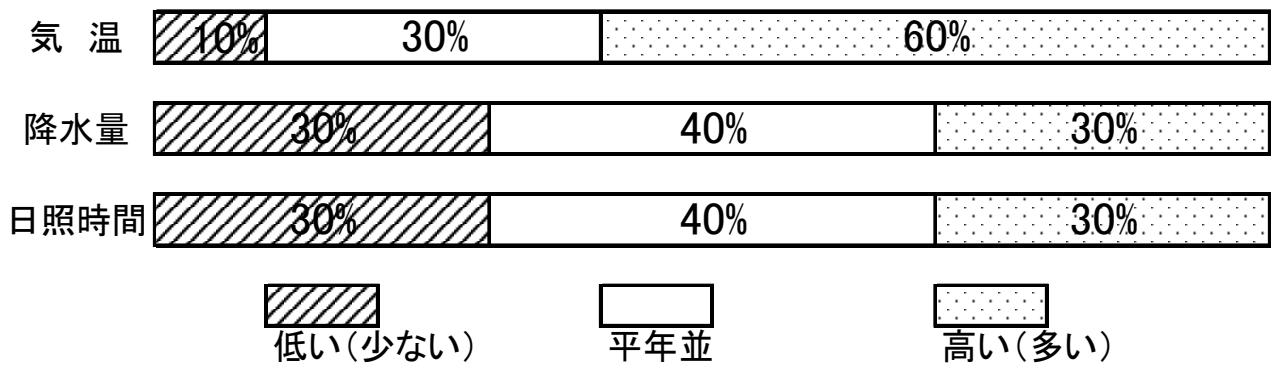
平成27年度 病害虫発生予察情報 発生予報第2号（5月）

平成27年5月 1日
島 根 県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	ムギ	さび病類	平年並
		赤かび病	平年並
		うどんこ病	やや少ない
	イネ	ヒメトビウンカ	やや多い
		ニカメイチュウ	やや多い
		イネミズゾウムシ	平年並
果樹	ナシ	黒斑病	平年並
		黒星病	やや多い
		シンクイムシ類	平年並～やや多い
	カキ	ハマキムシ類	平年並～やや多い
		ハダニ類	平年並～やや多い
		灰色かび病	やや少ない
野菜	タマネギ	かきたまアザミウマ	平年並
		ポトリ糸属菌による葉枯れ	少ない
	イチゴ	べと病	やや多い
		腐敗病・軟腐病	やや多い
		灰色かび病	平年並
	アブラムシ類	少ない	
	ハダニ類	平年並	

中国地方1か月予報(5月2日～6月1日・広島地方気象台4月30日発表)
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



A. 普通作物

1) ムギ

(1) さび病類（小さび病、赤さび病）

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

平年並

予報の根拠

① 4月30日現在、巡回調査地点において発生は確認されておらず、発生量はほぼ平年並みである。

② 向こう1か月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(2) 赤かび病

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

平年並

予報の根拠

① 4月30日現在、巡回調査地点において発生は確認されておらず、発生量は平年

並みである。
②向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) うどんこ病

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 やや少ない
①4月30日現在、巡回調査地点において発生は確認されておらず、発生量は平年に比べてやや少ない。
②向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

2) イネ

(1) ヒメトビウンカ

予報内容
発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 やや多い
予報の根拠
①予察灯への飛来は、4月第5半旬まで認められない。
②4月中旬のすくい取り調査（耕起前）では、捕獲数は4.6頭/20回振（平年0.3頭）、発生圃場率は54.5%（平年11.0%）で発生量は平年に比べてやや多い。
③越冬世代成幼虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は0%と低い。
④向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(2) ニカメイチュウ（第1世代）

予報内容
発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 やや多い
予報の根拠
①予察灯、フェロモントラップへの飛来は、4月第5半旬まで認められない。
②前年の第2世代成虫発生量は平年比180.7%で、越冬量は平年と比べやや多い。
③向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(3) イネミズゾウムシ

予報内容
発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 平年並
予報の根拠
①予察灯への飛来は、4月第5半旬まで認められない。
②前年の新成虫の誘殺数は平年比70.2%で、越冬量は平年並みと考えられる。
③向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容
発生地方 県内「二十世紀」栽培地帯
発生量 平年並
予報の根拠
①4月27日の巡回調査では発病を確認していない。
②向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 黒星病

予報内容
発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 やや多い
予報の根拠
①4月27日の巡回調査では、発病幼果率0.88%（平年0.48%）で平年と比べてやや多い。
②向こう1か月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(3) シンクイムシ類

予報内容
発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生時期 やや早い
発生量 平年並～やや多い
予報の根拠
①初飛来日は4月5日でやや早い。
②前年のナシヒメシンクイ第3世代成虫の誘殺数は平年並、越冬量は平年並みと考えられる。
③フェロモントラップ（安来市）でのナシヒメシンクイの誘殺数は平年並みである。

- ④ 向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

(4) ハマキムシ類

予報内容
発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① フェロモントラップの初誘殺は4月18日で平年並みである。
② 向こう1か月の気象は本種の発生を助長する要因とはならない。

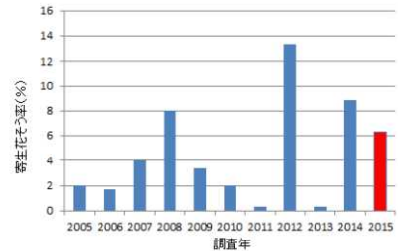
(5) ハダニ類

予報内容
発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① バンドトラップ調査ではカンザワハダニの越冬量は平年並み。
② 4月下旬の巡回調査(安来市)では寄生花そう率は6.3%(平年4.4%)と平年並みである。主要種はクワオオハダニである。
③ 向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

防除上の注意: クワオオハダニに効果がない殺ダニ剤があるので薬剤の選定には注意する。



ナシにおけるハダニ類の寄生花そう率の推移

3) カキ

(1) 灰色かび病

予報内容
発生地方 県内カキ栽培地帯
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 4月28日の巡回調査では発病葉率0.2%(平年1.3%)で平年と比べてやや少ない。
② 向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) カキクダアザミウマ

予報内容
発生地方 県内カキ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 4月下旬までに黄色粘着トラップで越冬成虫の誘殺は認められない。
② 4月28日の巡回調査では巻葉被害が認められない。
③ 向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

C. 野菜

1) タマネギ

(1) ボトリチス属菌による葉枯れ

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 少ない

予報の根拠

- ① 巡回調査地点における4月下旬の発生量は、発生圃場率0.0%(平年5.6%)、発病株率0.0%(平年0.11%)と平年に比べて少ない。
② 向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

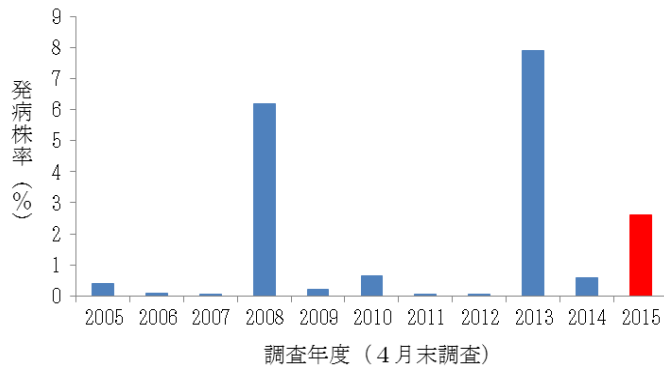
(2) ベと病

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 巡回調査地点における4月下旬の発生量は、発生圃場率33.3%(平年19.8%)、発病株率2.6%(平年1.6%)と平年に比べてやや多い。
② 向こう1か月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

注) 注意報第1号 発表中



タマネギにおけるべと病の発病株率の推移

(3) 腐敗病、軟腐病

予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 やや多い

- 予報の根拠
 ①巡回調査地点における4月下旬の発生量は、発生圃場率43.3% (平年44.7%)、発病株率2.8% (平年1.7%)と平年に比べてやや多い。
 ②向こう1か月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

2) イチゴ

(1) 灰色かび病

予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 平年並

- 予報の根拠
 ①巡回調査地点における4月下旬の発生量は、発病株率18.9% (平年14.1%)、発病葉率0.9% (平年0.6%)と平年並みである。
 ②向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) アブラムシ類

予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 少ない

- 予報の根拠
 ①4月下旬の発生量は、発生圃場率0% (平年20.2%)、寄生株率0% (平年3.2%)と少ない。
 ②向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) ハダニ類 (ナミハダニなど)

予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 平年並

- 予報の根拠
 ①4月下旬の発生量は、発生圃場率40.0% (平年50.8%)、寄生株率20.0% (平年24.2%)とほぼ平年並みである。
 ②向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

【参考となる事項】

※最新の農薬登録状況
 独立行政法人 農林水産消費安全技術センターホームページには、農薬の登録や失効に関する情報、農薬登録情報検索システムなどが掲載されています。
 農林水産消費安全技術センターのアドレスは <http://www.acis.famic.go.jp/>

島根県病害虫防除所 (島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科)
 〒693-0035 出雲市芦渡町2440
 TEL 0853-22-6772、FAX 0853-24-3342
 ホームページアドレス <http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>
 e-mail boujyo@pref.shimane.lg.jp